# 平成 25 年度 沖縄らしい風景づくりに係る人材育成

## 報告書・概要版

平成 26 年　3月

沖　縄　県

# 目　　次

１．事業の目的 ……1

２．事業の実施方針 ……1
１）風景づくりサポーター人材育成について
２）景観行政コーディネーター人材育成について
３）事業の推進体制及び推進フロー

３．風景づくりサポーターの育成 ……2
１）龍潭通り沿線地区
２）仲間地区
３）勝連城跡周辺地区
４）山巓毛周辺地区
５）米須地区
６）やちむんの里地区

４．景観行政コーディネーターの育成 ……14

## １．事業の目的

豊かな自然環境と固有の歴史文化から形成されてきたかつての沖縄の風景は、「美しい」と評された首里の都に代表されるように豊かなまちなみが形成されていた。しかしながら、戦争でその多くが失われ、復帰後の急激な社会基盤整備などにより沖縄の風景は大きく変化してきた。

近年においては、国、県、市町村、関係団体などにおいて、風景まちづくりに対する取り組みが行われ、また、県民のまちなみ・風景に対する機運も高まってきている。魅力あふれる沖縄らしい風景づくりには、環境や景観に配慮したまちなみの整備とあわせて、個性豊かな風景づくりに貢献できる人材が必要となるため、平成 24 年度に策定した「沖縄の風景づくりに係る人材育成計画」に基づく人材育成を実施する。

## ２．事業の実施方針

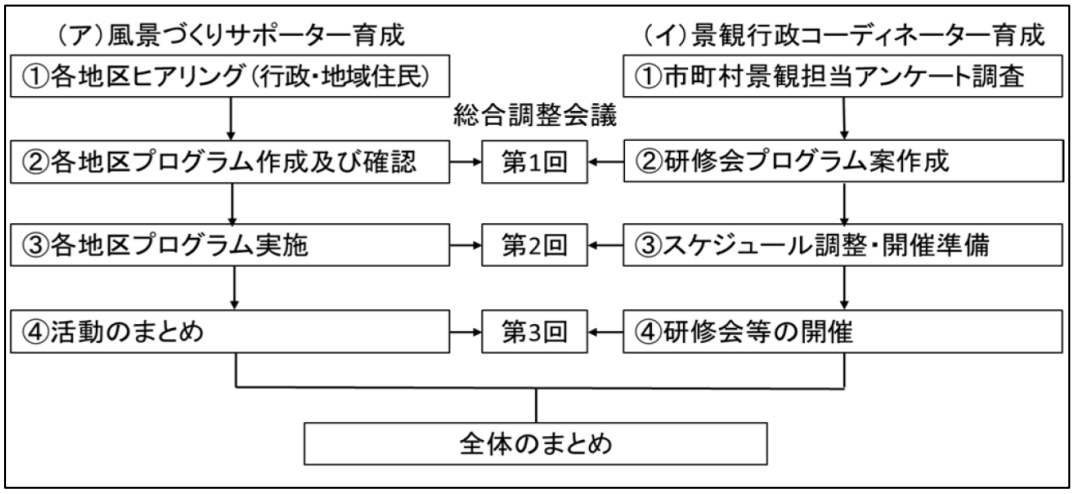
### １）風景づくりサポーター人材育成について

①地区ごとに状況が異なるため、独自のプログラムを作成する。
②幅広い層が参加できるように誘導する。
③地域人材と組織内の専門家による講師。
④継続的な取り組みの構図を作る。

### ２）景観行政コーディネーター人材育成

①市町村の景観行政担当者の具体的なニーズを把握するためアンケートを実施する。
②市町村の景観行政の取り組む段階に合わせたプログラムの構成を考える。
③総合的な景観行政に関する講演を塩見寛（しおみかん）氏へ、具体的な景観行政についての実務的な点の要望が多い場合は、景観計画を先行して作成した市町村（真鶴町、尾道市など）の景観担当責任者を講師として招く。
④講師を中心に、県内先行市町村の景観行政担当者を含めた意見交換会を実施し、各市町村の景観行政担当者から気軽に具体的な質問や意見交換ができる“場”を設ける。
⑤研修会をきっかけに、市町村の景観行政担当者が情報ストックの活用が可能となる仕組みを検討する。

【事業の推進フロー】



## ３．風景づくりサポーターの育成について

### １）龍潭通り沿線地区

#### （１）景観に対する現況及び取り組み

**①景観計画での位置づけ**

龍潭通り沿線地区は、首里城跡を中心とした世界遺産を有する、歴史的・景観的に重要な地区内にあり、赤瓦葺きや石垣等への助成を行い、古都・首里の城下町にふさわしい沿道景観形成を推進している地区で那覇市の「都市景観形成地域」に指定されている。

**②現況及び取り組み**

・首里城を中心として数多くの貴重な文化財を始め、古都の面影が随所に残っている。発掘や復元事業も続いており、どれも歴史を繋ぐ貴重なものばかりである。また、龍潭通りは、景観条例に基づき、建物のほとんどが建て替えられ、街路も拡幅工事を行っている最中である。

・首里城を中心として、龍潭を始め、随所に拝所、石垣や石畳、井戸、庭園等々、貴重な歴史的資源が数多く残っている。

**③風景づくりの課題**

[ポケットパーク]

・古くからある石垣の上部に管理がされていない空地があり、石垣が連なっている美しい景観に若干支障が出ている。

[境界塀の緑化]

・石垣が崩れ、代わりにできた擁壁で古くからある石垣の連続性が途切れてしまっている。

[井戸]

・かつては、地域で活用されていた井戸が目立たない場所にひっそりとある。

[アダニガーウタキ/安谷川御嶽]

・古くから地域の神聖で大事な場所であるが、石門アーチの石積みの手入れも十分にできていない状況。

[アダニガー/安谷川]

・傾斜が強く手摺の無いアプローチで高齢者が入って行けず、また、井戸周辺の手入れも十分にできていない状況。

[イチャガー/板井戸]

・古くから地域の大事な場所でありながら、手入れも十分にできていない状況。

[中城御殿の裏の通り]

・大変重要な施設になる中城御殿に近接する通りとして、統一性の無いブロック塀が続き、景観上問題があると思われる。

[ヤマトガー／大和井戸]

・かつては、地域のコミュニテイの大事な場所であった井戸だが、十分に活用されていない。

[池端町のスージ]

・表通りから地域に抜ける道で、かつては琉球石灰石の趣のある道だったと思われるが整備が不十分である。

[城西小学校へのアプローチ]

・龍潭通りに面し、城西小学校の校門へのアプローチであるが、整備が不十分である。

## ④風景づくりサポーター育成プログラム

**[1]ワークショップの開催**

首里池端町自治会、首里大中町自治会、首里当蔵町自治会の代表を交えてワークショップを開催。併せてまちあるきにて問題・課題点を確認。

**[2]問題点・課題**

池端町地区の井戸を修景。看板が設置されていて、井戸が見えない。ゴミが捨てられている事がある。

**[3]解決方針**

・看板の移動。看板の移動には手続きが必要になるおそれがあるので、次回検討会までに確認。あわせて見積もりも確認。

・井戸の周りと床をメインに整備し（床を石張り、ブロック塀に切石張り）、壁の緑化を考えている。ポンプの設置に関しては、電気を使わないタイプの手動を考えている。子供達と地域のふれあいの場にしたい。他にも、コンクリートブロックを２段程下げて漆喰仕上げのベンチを設置し、休憩所としても良いのではないかと案が出た。

**[4]実施研修**

作業に関しては石を切るなど技術が必要な事は職人さんにお願いして、他の作業は指導してもらいながら住民の手で仕上げてもらう形で進めたい。

## ２）浦添市仲間地区

### （１）景観に対する現況及び取り組み

#### ①景観計画での位置づけ

琉球王朝の歴史を有する浦添グスクを背後に発展した古い集落であり、浦添市景観まちづくり計画における重要かつ先導的なモデル地区として「重点地区」に定められている。

#### ②現況及び取り組み

・現在仲間地区は、景観まちづくり重点地区として道路の整備も進んできている。また、仲間自治会館のガジュマルも浦添市の景観資源（樹木）となっている。
・御待毛からようどれ館に至る道は、舗装も整備され、この地区の景観の中心となっている。
・仲間自治会館の周辺コンクリート擁壁を緑化したい。
・仲間自治会館のガジュマルは、以前は定期的に剪定していたが、ここ何年かは剪定おらず、台風で倒木しないか心配。剪定したい。

#### ③風景づくりの課題

[御待毛からようどれ館に至る道]
・歩道に植栽帯はあるが、舗装として整備されたため、整備当初は芝生しか計画できなかった。自治会で徐々にミニサンダンカを植え付けているが、予算が足りないため、中途半端な植栽となっておりなんとかしたい。

[仲間自治会館]
・擁壁にワイヤーメッシュを設置し、蔓性の植栽をしたが、うまくいかない。
・以前は自分たちでリフト車を借りてガジュマルを剪定していたが、うまく剪定できないし、さすがに大きくなりすぎて手がつけられない。

## ④風景づくりサポーター育成プログラム

**[1]ワークショップの開催**

「がじゅまる会」のメンバーを中心とした 17 名が集まり、自治会周辺への緑化について意見を出しあった。

**[2]問題点・課題**

・壁面にパネル（名前・説明等を記載した）を設置して、そのパネルと同じ植物を植える。
・自治会館周辺にニチニチソウを植え壁面緑化したい。
・モノレールの柱のように、自治会館周辺のコンクリートの壁へ網を利用したツル関連の植物を植えたらどうだろうか。
・浦添は舗装と壁面は整備されてきているが、緑化の土台となる土を植えるスペースが道路空間に無いため壁面緑化は難しい。

**[3]解決方針**

・いくつか花や植物の候補が出たが、毎日の手入れが必要になってくるため今回はラン（デンドロビューム）を何か所かポイントを決め設置。
・自治会館周辺・整備された道沿いのいまだ花を植えてないスペース（御待毛～サーターヤーの跡～浦添グスクようどれ館付近）を対象に緑化を実施する。

**[4]実施研修**

・ワークショップに今回参加して頂いた「がじゅまる会」のメンバー以外にも子供会、屋敷に庭や花を所持しているなどの興味のある方に参加出来ないか調整働きかける。
・座学にて、緑化の手法・栽培の注意点など知識を習得する。
・座学終了後、参加者が協働でヘゴ板と水ゴケを活用し、ランの苗床づくりを実施する。
・約半年間、苗床の世話を地域住民で行い、生育が安定したころ協働で自治会館の壁面等へランを設置し修景作業を実施する。

## ３）うるま市勝連城跡地区

### （１）景観に対する現況及び取り組み

#### ①景観計画での位置づけ

沖縄本島中部うるま市の勝連半島に位置し、12～13 世紀のグスク時代に活躍した「阿麻和利」の居城として有名な「世界遺産勝連城跡」を中心に、うるま市における景観、歴史文化、観光の拠点として、世界遺産に相応しいまちづくりが進められている。

#### ②現況及び取り組み

・勝連字南風原は、うるま市の南西部に位置し、旧具志川市と旧勝連町の境を接した肥沃な地に位置している。南風原集落は、勝連城南側傾斜地の元島原に発祥したと伝えられ、１７２６年（尚敬王１４年）に、※前浜三良（カッチンバーマー）の努力によって、現在の肥沃な地に移動した。現在でも、村づくりの大恩人として南風原の人々は感謝して、報恩社を建てて祀っている。（勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画より）

・集落にある４箇所のカー（①アガリカー、②マンナガー、③イリーガー、④アシビナーカー）を地域の神聖な場所として大切にしている。

#### ③風景づくりの課題

・勝連城跡が世界遺産登録後、歴史や文化に対する認識は高まってきた。しかし、まちづくりや風景づくりという分野への認識は高まっていない。

・風景づくりに関する住民活動のきっかけをどう作り、協働の取り組みとするか。

・４箇所のカーには子ども等が転落するのを防止するため、金網が設置されているが、金網があることで、景観を損ねているとともに、井戸の張った藻の除去等清掃活動にも支障をきたしている。

・カーの修景と併せて路地の景観もきれいにしたい。

・南風原公民館前の通りは地域のシンボル的な通りだが、コンクリートブロック塀が連なって無味乾燥な景観となっておりなんとかしたい。

・コンクリートブロック塀の所有者へ修景の了解を得て、住民参加で修景作業を行いたいが、どの様に仕掛け、修景をどの様に行うか検討が必要。

## ④風景づくりサポーター育成プログラム

**[1]ワークショップの開催**

ワークショップを開催。併せてまちあるきにて問題・課題点を確認。

**[2]問題点・課題**

まち歩き後のワークショップでは、4 箇所のカーの内、マンナガーを修景することが検討されたが、カーの修復に着手するには区の総会を開き区民の承認を得ることが必要なこと等から 25 年度中に実地研修を終えることが難しいことがわかった。

**[3]解決方針**

総会による区民の合意を要せず、且つ区民の景観形成への意識を高める効果が高い取り組みとして、公民館前の民家のコンクリートブロック塀を浦添市仲間地区の事例に習い、漆喰で修景することを試みることとした。

**[4]実施研修**

南風原公民館前の馬場跡、そこに無味乾燥的に立っている全長約 30mのコンクリートブロック塀を浦添市仲間地区の事例に習い、漆喰とレンガタイルを用いて、沖縄らしく風合いのある屋敷囲いへと修景を施す。

1）先ず対象となるブロック塀の洗浄（高圧洗浄機）と補修（壊れたブロック等の補修）

2）漆喰の下地塗り

3）漆喰の仕上げ塗り

※上記の工程は晴れた日に実施され、延べ 4 日間を要した。

## ４）糸満市山巓毛周辺地区

### （１）景観に対する現況及び取り組み

#### ①景観計画での位置づけ

山巓毛からの眺望風景を確保し、また糸満市の顔として糸満ロータリー及びその周辺を、統一感や潤いを持たせることで、にぎわいと落ち着きのある沿道景観や海とのつながりを意識した風景を創出していく。

#### ②現況及び取り組み

［ジョーグヮー］

・報得川が内陸部より栄養を運びその河口に広がる珊瑚礁、その藻場が糸満の漁村を発展させた。近世中ごろ、近場の農村部から漁業に従事する為、海岸近くに移り住む者が出て、糸満の門中の宗家となる。その子孫は浜を埋め立て、住宅を作り、内陸部の排水路の延長に入江を作り、そこを船溜りとする人々が共同感情を持つｺﾐｭﾆﾃｨｰを形成した。北から①ﾄｩﾑｲﾝｼﾞｮｰ②ﾅｶﾞﾝﾆﾝｼﾞｮｰ③ｸﾝﾒｰｸﾞﾜｰﾝｼﾞｮｰ④ﾀｶﾗｸﾞﾜｰﾝｼﾞｮｰ⑤ﾏｰﾁﾝｼﾞｮｰ⑥ｶﾈｸｸﾞﾜｰﾝｼﾞｮｰ⑦ﾆｼﾐｰｼﾞﾝｼﾞｮｰ⑧ｶﾝｼﾞｬｰｼﾞｮｰｸﾞﾜｰ、新たに白銀堂前の路地界隈にｲｰﾋﾞﾝﾒｰｼﾞｮｰができ、計９箇所のｺﾐｭﾆﾃｨｰが現存する。

［町端区市有地］

・ｼﾞｮｰｸﾞﾜｰエリア通りに沿って市有地の花壇がある。高木や低木が数本植栽されているが手入れが行き届いていない。地域の手が入れば、花壇を花いっぱいの花園に替えることができる。

［西区市有地］

・漁港沿岸道路、通称ﾔｯｶﾗｰ通りの北側ﾄｩﾑｲﾝｼﾞｮｰ入口の県有地（漁港管轄）。

・糸満漁港に面し、漁港から見たﾔｯｶﾗｰ通りは緑の少ない殺風景な場所であるが通り沿いに県有地が点在する。殺風景なﾔｯｶﾗｰ通りにポケットパークとして緑や花で覆うことができる場所である。

［糸満の赤瓦群］

・戦前からの木造赤瓦葺きの住宅が点在し、その中には人の気配のない住宅が多数見受けられる。そのような住宅を古民家保全再生活用事業に生かせないか？

#### ③風景づくりの課題

［山巓毛集合墓地］

・国道３３１の拡張工事で、山巓毛と糸満ﾛｰﾀﾘｰ間の建物が殆どが立ち退きになっているが、正面にある２階建ての建物２棟が対象にならず残ることになる。せっかく露呈した、御墓群の景観も見え隠れしてシンボル的なものが失われている。

［ジョーグヮー］

・各ジョーから侵入していく敷地までの通路が、4m未満の狭隘道路となっているところがほとんどで、建物の建て替えには、法規上の問題がある。また、駐車場の問題もあり、若者には住みにくく魅力を感じない街のようである。独特な風景をつくるｼﾞｮｰ小を活かした風景づくりを行いたい。

［町端区市有地］
・市所有の花壇であるが、荒れ放題で、ごみの不法投棄がなされたり、子供たちの遊び場となっている。
［西区市有地］
・現在、付近住民の便利な駐車場として使用されており、殺風景な場所である。
［糸満の赤瓦群］
・狭隘道路が入り組んでいる地域ではあるが、この通りは、市場通りだっただけあり十分な道幅がある。しかし、一歩踏み入った敷地は、幅員 4mに満たない建て替えの難しい場所である。

### ④風景づくりサポーター育成プログラム

**［1］ワークショップの開催**
ワークショップを開催。併せてまちあるきにて問題・課題点を確認。付箋紙に意見を書いてもらい、地図に貼付け場所も確認出来るように行った。

↓

**［2］問題点・課題**
・町端区、西区の市所有の花壇であるが、荒れ放題で、ごみの不法投棄が目につく。
・井戸にポンプ設置を行いたい。

↓

**［3］解決方針**
・井戸のポンプ設置に伴う、費用と安全性の面から、今回は緑化の方で話を進める。
・今回は第１回目となるので、計画が進んでいくうちにポンプの件を含めた話にしていく。

↓

**［4］実施研修**
・花や庭の講師を呼んで勉強会を兼ねて、地域住民の参加を促す形で話を進めていく。
・町端地区・西地区の２ヵ所を花壇の整備対象と決定。

## ５）糸満市米須地区

### （１）景観に対する現況及び取り組み

#### ①景観計画での位置づけ

糸満市米須自治会では、地域全体を屋根のない「村まるごと生活博物館」と宣言し、地域資源を活用した地域活性化に取り組んでいる。併せて住民が美化活動や環境保全型の地域づくりを目指す地区環境協定がスタートしている。

#### ②現況及び取り組み

［シマクサラーのデイゴ］

・シマクサラーのデイゴは推定樹齢百年以上と言われ、米須村では１番の老木である。戦後焼け野原となった米須村では、この大木の下で青空教室が開かれた事もある。村民にとっては貴重なシンボルツリー的な存在である。

［久保田山城の塀］

・屋敷囲いの種類は幾種かある。積み方、材料の種類等様々である。この久保田山城の屋敷囲いはテージンサケー（琉球石灰岩を加工し隙間なく積み上げた石垣）と言われ富豪の家庭に多く見られる積み方である。米須村でもテージンサケーは数少なく、久保田山城のテージンサケーは角には角石（すみいし）と呼ばれるそりの入った石が据えられている。これは民家としてはここでしか見受けられない貴重な石垣である。

［公民館後］

・現在米須地区では、「自然に囲まれた村」と言うイメージ作りに取り組んでいる。その象徴ともなるべき蝶のオオゴマダラを増やす為に努力を行っている。そのオオゴマダラが好む花がホウライカガミである。

・村の何処を歩いても、オオゴマダラが飛んでいる事が、自然が豊富と言う証になるので、オオゴマダラをいっぱいにしたい。

#### ③風景づくりの課題

［シマクサラーのデイゴ］

・デイゴの木に害虫が入り朽ちかけている。

・デイゴの木下周辺が瓦礫や粗大ゴミ、枯葉が散乱している。

［久保田山城の塀］

・石垣が所々崩れ落ちている。

［公民館後］

・公民館南側に現在オオゴマダラが好むホウライカガミを定植しているが、綺麗に整備されていない為定植率が悪い。

［馬場周辺］

・馬場と個人の屋敷囲いに隙間があり、雑草が生えている。

・所々に古タイヤ、パイプ、木材等が放置されている。

・馬場東側入り口の方に村有地があり、現在雑草地となっている。

## ④風景づくりサポーター育成プログラム

**[1]ワークショップの開催**
ワークショップを開催。併せてまちあるきにて問題・課題点を確認。

↓

**[2]問題点・課題**
・デイゴの木に害虫（デイゴヒメコバチ）が入り朽ちかけている。
・デイゴの木の足元はゴミ捨て場となっており景観上問題がある。

↓

**[3]解決方針**
伝統行事にも必要な木である為、残していきたい。デイゴの木へ薬剤注入による処置を行いたい。周辺の瓦礫整備、花壇整備も行う。

↓

**[4]実施研修**
デイゴの木に寄生するデイゴヒメコバチについての講習会を実施、併せて地域の方々と道路花壇の緑化作業を実施する。

## ６）読谷村やちむんの里地区

### （１）景観に対する現況及び取り組み

#### ①景観計画での位置づけ

やちむんの里地区は、伝統の赤瓦の登り窯があり、緑に囲まれた里内には 15 の工房が点在し、陶芸家による創作と生活が一体となった村づくりが行われている地区である。

読谷村景観計画の中では、景観重点地区に指定されており、登り窯の赤瓦屋根、地区内の石畳道、豊かな緑がつくる落ち着いた景観が独特な地区である。

#### ②現況及び取り組み

・道路工事現場から移植された木が数十年を経て、林になっている。
・読谷役場が建設した陶芸教室とハイビスカスの植込みがバランスよく配置されている。
・自生する雑木や琉球石灰岩の道路によって、コントラストが強くなり沖縄らしい美しい風景がやちむんの里に広がっている。

#### ③風景づくりの課題

・木が大きくなり、密集度が高い。
・木麻黄の木が台風被害で樹形が壊れている。
・この地区はもともと原野だったが、ところどころに造園業者の苗床があったため、外来種の樹木が群生している箇所がある。したがって、緑としてはちぐはぐな景観を作っている部分がある。
・北窯の入口にコンクリート製の電柱が立っている。

## ④風景づくりサポーター育成プログラム

**[1]ワークショップの開催**

テーマを２つ用意し、３チームに分かれてアイデアや課題を話し合う。付箋紙に意見を書いて、いくつかの種類に分けて分類分けする。

テーマ毎に各グループが討議し、検討結果を各グループの代表が発表しあい、意見交換を行う。

テーマ①：「赤瓦の活用法を考えてみよう」

テーマ②：「読谷村を緑でいっぱいにするには？」

**[2]問題点・課題**

・街路樹の名称通り（黒木、松等）を作りたい。
・街路樹を増やすのは良いが、管理は十分にできるのか。
・赤瓦を普及するには、行政の補助制度が必要。
・補助制度以外に固定資産税の減免措置などもセットで必要ではないか。
・やちむんの里周辺に住宅開発が迫ってきており、登り窯が使えなくなったら問題である。なんとか、景観計画で設定している緩衝緑地の設定を急げないか。

**[3]解決方針**

・街路樹の名称通りを考えるに先立ち、知識の定着の一環として樹木剪定講習を開催。
・読谷産の赤瓦を製品化してはどうか。

**[4]実施研修**

・読谷緑の提案に関連して、樹木剪定講習と丸太花壇作りを実施。
・北窯入口付近を住民参加で花と緑により修景する。

## ４．景観行政コーディネーターの育成

### １）景観地区指定に向けた現状と問題点、ニーズ（市町村ヒアリングより）

**①参加者について**

・説明会などに参加する方々は圧倒的に男性が多く、女性の出席者は年配の人が多い。
・区長などリーダーが若いと比較的若い層も参加するようになる。
・地主が土地を売り新たな住民が移り住むときに、基準を理解していない場合が多い。
・開発事業者、設計事務所、建設会社などいわゆる住宅産業に関係する事業者の理解度も低く、窓口で説明しても理解してもらえない場合もある。

**②住民の合意形成について**

・説明会等での内容で質問が多いのは、建物の高さと緑地率についてで、「何でうちだけ？」「やらなくても・・」といった意見が多い。
・石垣積みや赤瓦についても理解してもらえているが、助成についての要望は多い。

**③庁内の連携について**

・農業関係や財政、環境関係（墓地について）の連携が必要であるが、現在は個別に対応している。

**④県内の情報交換について**

・気軽に相談できる場は必要。

**⑤まちづくり全体から**

・地域に説明に行く場合は、景観以外の点についても相談や要望を受ける。例えば、税制面や商店街の活性化の件、道路拡幅などの交通問題、観光面、生活面、下水道や文化財の扱いなどについてである。
・そのため、景観はまちづくり全体に関連してくると捉え、話をしながら進めていく必要がある。

**⑥庁内連絡会議について**

・上記のような点に対応し、那覇市としては地区によって都市デザイン室が中心になり関係課の連絡会議を年３～４回開催している。

**※以上の点から今回の研修会におけるポイントは次と考える。**

１）地域の住民の方々に対し、説明会などにどのように多くの方々に参加してもらうか？
２）地域住民や関係事業者にどのように景観基準等を周知させるか？
３）庁内の連携をどのように図るか？

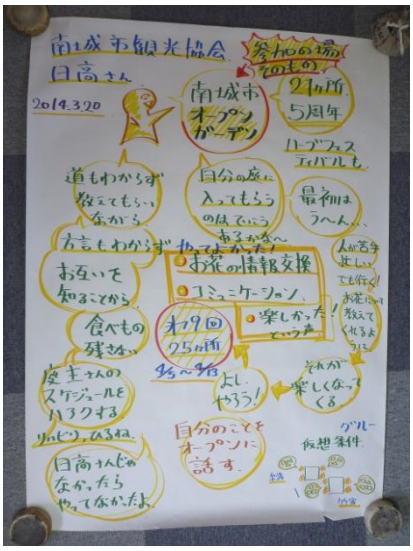
## 2）景観行政コーディネーター育成プログラム

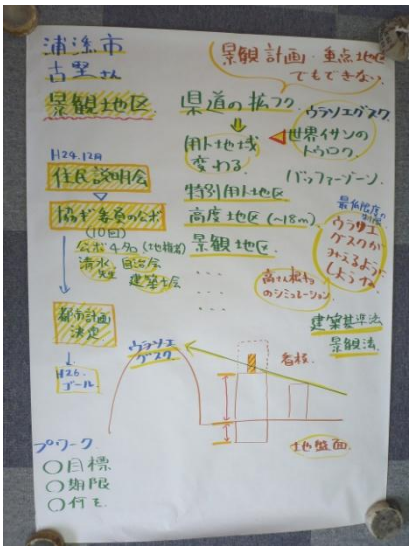
### ■第１回研修会

| 時刻・所要時間 | 内容 | スタッフ及び備品 |
|---|---|---|
| １．ワークショップの目的、方法の説明<br>14：40～14：50<br>（10 分間） | ①目的の説明<br>②方法の説明<br>③質問 | ①リーダー<br>②ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ<br>③記録者<br>④ホワイトボード<br>⑤手元資料 |
| ２．　テーマ１<br>A→参加<br>B→周知<br>C→庁内連携<br>14：50～15：20<br>（30 分） | ①各グループのファシリテーター自己紹介<br>②各参加者の所属市町村名程度の自己紹介とそれぞれのテーマに沿って課題となっている事例についての説明<br>A：「地域の合意形成で住民の参加という点で課題となっている事例について」<br>B：「地域の合意形成で住民や関連事業者への周知という点で課題となっている事例について」<br>C：「各参加者の所属市町村名程度の自己紹介と各自治体での庁内の連携についての現状について」<br>③1 つの具体的な課題について、順番にアイデアを出し合う。<br>④ファシリテーターが提案されたアイデアを確認する。 | ①記録書<br>②IC レコーダー<br>③メモ（A5 サイズ）<br>※塩見さんと池田理事長は適宜各グループに参加 |
| ３．席移動<br>15：20～15：25<br>（5 分間） | 参加が席を移動する。A→周知　B→庁内連携　C→参加<br>（ファシリテーターと記録者は同じテーブル） | |
| ４．テーマ２（１と同じ）<br>15：25～15：55<br>（30 分間） | （テーマ１と同じ手順）<br>模造紙は変えず、そのまま書き加える。いっぱいになったら別紙を用意する。 | ①記録書<br>②IC レコーダー<br>③メモ（A5 サイズ）<br>※塩見さんと池田理事長は適宜各グループに参加 |
| ５．席移動<br>15：55～16：00<br>（5 分間） | 参加が席を移動する。A→庁内連携　B→参加　C→周知<br>（ファシリテーターと記録者は同じテーブル） | |
| ６．テーマ３（１と同じ）<br>16：00～16：30<br>（30 分間） | （テーマ１と同じ手順）<br>模造紙は変えず、そのまま書き加える。いっぱいになったら別紙を用意する。 | ①記録書<br>②IC レコーダー<br>③メモ（A5 サイズ）<br>※塩見さんと池田理事長は適宜各グループに参加 |
| ８．まとめ（池田理事長と塩田氏のミニ対談）<br>16：30～17：00<br>（30 分） | ①各ファシリテーターが 3 つのテーマでアイデアのまとめを発表する。（合計 10 分程度）<br>②それを受け、池田理事長と塩見氏で、「今後求められる行政コーディネーターとは」についてミニ対談<br>（グループを変え話し合った意味と話し合いで出たアイデアを事務局がまとめて後日提供することを説明） | ①塩見氏<br>②池田理事長<br>③各ファシリテーター |
| ９．終了 | 進行役から第 1 回研修会の終了と第 2 回の予定説明 | |

## ■第２回研修会プログラム

| 時刻・所要時間 | 内容 | スタッフ及び備品 |
|---|---|---|
| １．第１回の振り返りとワークショップの目的、方法の説明<br>15：10～15：25<br>（15 分間） | ①第１回の振り返り<br>②目的の説明、方法の説明<br>③質問 | ①リーダー<br>②ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ<br>③ホワイトボード<br>④手元資料 |
| ２．　テーマ１<br>状況設定と地域合意形成の全体プロセス案作成<br><br>15：25～15：55<br>（30 分） | ①各グループのファシリテーター自己紹介<br>②各参加者の所属市町村名程度の自己紹介とグループリーダーを決める。<br>③ファシリテーターが具体的な状況設定とプロセス案の作成について説明する。<br>④地域合意形成のための全体プロセス案を作成する。<br>⑤リーダーがプログラム案を確認し、全員に説明する。 | ①ファシリテーター<br>②IC レコーダー<br>③模造紙<br>※宮道氏は適宜各グループに参加・アドバイス |
| ３．テーマ２<br>ワークショップのプログラム案作成<br>15：55～16：25<br>（30 分間） | 地域の合意形成のプログラムの 1 つとしてワークショップのプログラムを作成する。<br>①テーマ、状況の設定<br>②ワークショップのプログラム案を作成する。<br>④リーダーがプログラム案を確認、全員に説明する。 | ①ファシリテーター<br>②IC レコーダー<br>③模造紙<br>※宮道氏は適宜各グループに参加・アドバイス |
| ４．宮道氏と各ファシリテーターによるまとめ<br>16：25～16：55<br>（30 分） | ・地域との合意形成で全体のプロセスを作る上で何が重要か？<br>・ワークショップのプログラムを作り実施するためには、何が重要か？ | ①ファシリテーター<br>②各グループの模造紙<br>②IC レコーダー |
| 閉会<br>16：55～17：00<br>（5 分） | ・ワークショップの内容は後日メールでご提供することを伝える。 | |



### ３）今年度の成果と今後の課題

今年度実施した 2 回の研修会の成果とその結果、明らかになった今後の課題について次のように整理した。

**【成果】**

（1）講演会による景観行政に関する取組方の基礎知識習得

研修会では塩見寛氏より景観づくりに関する「行政側の基本スタンス」や「協働の仕組み」について、また宮道喜一氏より「地域側からみた景観まちづくりの意義」や「住民参加の場づくり」や「合意形成の基本的なポイント」についての講義を受け、それらの情報や知識を習得していただいた。

（2）ワークショップによる景観行政コーディネーターとしての基礎技術の習得

第 1 回の研修会では、住民の参加誘導、理解の向上方法、行政間の連携に関する課題の解決策を探るワークショップを実施し、引き続き第 2 回の研修会では、地域合意のプロセスデザインとワークショップのプログラム作成の研修し基礎的な技術を習得していただいた。

（3）研修会全般を通して各行政間のネットワーク形成

2 回の研修会では、講演以外にワークショップを実施し、直接各市町村の景観行政の担当の職員の方々が話し合い、その結果を共有するという場面をつくった。その結果、各市町村の取組の概要を把握し、必要に応じ直接情報提供やアドバイスを受ける関係を構築することができた。

**【今後の課題】**

（1）実践技術の習得

2 回の研修会を通じて感じる点は、基礎的な技術は習得している反面、状況に応じ柔軟に対応する応用力が欠ける点や、情報としては理解しているが実践での経験が若干不足しているような点が見受けられた。今後は、習得した基本的な情報や知識を実践的に活用し、行政と地域との合意形成を主導的にリードできるような研修が必要と思われる。また、合意形成までのプロセスデザインについても、具体的な目標の設定やそれまでの”参加の場”の設定、様々な条件の変化によるプロセスの修正等の実践的な技術の習得が必要であると思われる。

（2）習得技術のストックや活用方法の検討及び活用

2 回の研修会で話し合われた内容は議事録としてまとめられているが、各市町村では、この中に活用可能な取組や合意形成について検討するために必要と思われる情報が含まれていると思われる。これらの情報について、景観行政担当者が手軽に引き出せるように整理することや仕組みを作ることが必要であると思われる。例えば、データベースとして保存し、キーワードで検索可能とするなどの情報の整理管理方法やその情報を具体的に活用しようとした場合のアドバイス方法など、各行政間の連携の具体的な仕組みについて検討することが必要と思われる。